■福田徳三　　経済学者。自由主義福祉国家論先駆者で，転変の後，地位を回復し，〈大正デモクラシー〉も先導した。
ふくだとくぞう
佐賀の乱・・1874＝　　僧侶だった祖父が江戸に出て，神田元柳原町で始めた刀剣商徳兵衛の長男に生まれる。

母信子は脱藩して江戸に出て砂糖売商となった旧豊後臼杵藩儒の次女という環境に育ち，

明治14年政変1881＝ 7歳：
腕白の劣等生であったが，
岩倉具視没・1883**＝ 9歳：**

内閣発足・・1885＝11歳：母の意向で築地新栄教会で植村正久から受洗し，

国民之友始・1887＝13歳：母が死去すると，急に勉学に目覚め首席を争うようになり，
初の対等条約1888＝14歳：泰明小学校を卒業。国語と英語が得意で，
帝国憲法発布1889＝15歳：
帝国議会始・1890＝16歳：高等商業学校予科に入学，
家計窮迫のため，お雇外人教師の秘書やアメリカ人旅行者のガイドなどをして学資を稼ぎ，
大本教・・・1892**＝18歳：**

日清戦争始・1894＝20歳：_高等商業学校を卒業，神戸商業学校教諭となったが
日清戦争終・1895＝21歳：_退職し，高商研究科へ進学して神田乃武に師事，
白馬会・・・1896＝22歳：_卒業して日本最初の商学士となる。ただちに同校講師に就任。

子規句歌革新1898＝24歳：_ドイツ留学の命を受け出立，ライプチヒ大学に入り歴史学派経済学者K・ビュヒャーらに学んだが，ミュンヘン大学へ転じ，同学派のL・ブレンターノに師事して研究。
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝26歳：*師と共著の「労働経済論」を東京で出版，ブレンターノの所説を日本に紹介後，ミュンヘン大学で国家学博士の学位を取得，提出論文「日本における社会的・経済的発展」(独文)は{ミュンヘン国民経済叢書}の1冊として出版された。同年留学中ながら高商教授に昇任。その後，ヨーロッパ各地の巡歴，コレジ=ド=フランスでの研修，イタリア滞在などを経て，
田中正造直訴1901**＝27歳：**_帰国。母校高商で経済原論・経済史を担当したが，
日露戦争始・1904＝30歳：_松崎蔵之助校長と衝突して2年間の休職となり，外務省の賃訳で糊口を凌ぐうち，
日露戦争終・1905＝31歳：_法学博士の学位を受け，慶応義塾教員として迎えられ，経済学・日本経済史を講じ始め，
満鉄発足・・1906＝32歳：高商は期限満了後自発的に退職した。
韓国反日暴動1907＝33歳：*この年，ドイツでの卒論が坂西由蔵の訳で「日本経済史論」として刊行される。

韓国併合・・1910**＝36歳：**_改称されていた東京高商(東京商科大学)へ講師として復帰，

明治天皇没・1912＝38歳：

本格政党内閣1918＝44歳：_慶応を退職し，
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919**＝45歳：***東京高商教授に就任，15年目にようやく地位を回復し，経済原論・経済史・経済政策・社会政策などを担当。また，吉野作造らとともに民主的な学者・思想家ら40余名を結集して{黎明会}を組織，デモクラシー擁護の言論活動を展開し，東京帝大の経済学者らと日本社会政策学会の運営にも活躍，
大暴落・・・1920＝46歳：_同校の昇格に伴い東京商科大学教授となる。
原敬首相暗殺1921＝47歳：_{黎明会}の解散も主導したため，社会主義者から反動呼ばわりされる。
水平社結成・1922＝48歳：帝国学士院会員に選ばれた。
関東大震災・1923＝49歳：_内務省社会局参与となり社会問題の調査，社会立法の立案などに奔走，〈関東大震災〉後は復興対策について具体的な意見を公表し世論の動向に影響を与えた。
護憲三派圧勝1924＝50歳：_それまでに発表した著作・論稿のすべてを集成することを計画，
治安維持法・1925＝51歳：_「流通経済講話」。ブリュッセルで開かれた第6回万国学士院連合会議に帝国学士院代表として出席，引き続きドイツへ赴き恩師ブレンターノを訪問，レニングラード学士院200年祭に参列，
円本時代始・1926＝52歳：その後ヨーロッパ各地を巡歴して帰国，ブレンターノ八十賀に因んで自作の全集刊行を企図，
金融恐慌・・1927＝53歳：_「経済学全集」全9巻の刊行を完結した。フランス学士院客員に推される。
共産党事件・1928**＝54歳：***さらに真骨頂を示す「唯物史観経済史出立点の再吟味」「経済学原理総論及生産篇」を刊行したが，
海軍軍縮条約1930＝56歳：糖尿病で慶応病院に入院中，虫垂炎で_没した。

刀水書房「20世紀の歴史家たち2」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，